

コストダウンと顧客の開拓も

東京都大田区の町工場から世界へ。大田区の町工場にはオンリーワンの高い技術を持つ企業が多く、製品が海外に輸出されるだけでなく、企業自体の海外進出も増えている。1社単独で海外に拠点を持つ企業もあるが、人材が少なく、ノウハウを持たない中小企業にとって海外進出は簡単な話ではない。そこで、頼もしい存在なのがタイのチョンブリ県にある「オオタテクノパーク（OTP）」だ。

タイ「オオタテクノパーク」

企業の飛躍を後押し

月額20万円弱
大田区産業振興協会が日本の中小企業の窓口となり、アマタナコン工業団地を運営するアマタグループが現地の建設や運営を担当する。OTPは06年6月に完成。敷地面積は7800平方メートル、建屋を320平方メートル、8区画に分けて貸し出している。1区画の賃料は月額20万円弱。現在、敷地内に第2棟の建設計画があり、年内にも着工する予定だ。第1棟とはほぼ同じ広さで、08年半ばごろに完了する見通し。

イにおける免税の優遇措置の代理申請や従業員の採用などのサポートがある。日本国内では大田区産業振興協会、タイではアマタが担当する。担当者の上原正樹企業支援グループ取引促進チームリーダー

「特に単独で海外進出するのが難しい企業に活用してもらいたい」と、企業の飛躍をサポートする。現在、現地調達をしている取引先が好調なため、入居企業も仕事に追

われている。最初に入居した南武（東京都大田区、野村和史社長、03・3742・7377）は自動車などの金型用中子抜き油圧シリンダーで高シエアを持つ。すでに保有していたタイ工場からO

TPに移転し、3区画を借りている。コストの安いタイで東京の本社向けに油圧シリンダー用部品を、タイや周辺国向けには完成品を作っている。

顧客開拓に力

当初は日系メーカー向けが多かったが、最近では現地企業への販売も徐々に伸びている。2直24時間体制で操業し、顧客の注文に対応している。

現地視察は30社超に

新たなモデルケースで注目

サポート充実
OTPに入居するメリットとして、工場施設を利用できるのに加え、タ

まず技術教育
また、南武に続いて入居した西居製作所（東京都大田区、西居賢社長、03・3751・420

加工を行っている。従業員20人と小規模の会社ながら、進出を決めた。当面は技術スタッフの教育を中心に行う。近い将来には、国内から海外へ輸出している分をすべてタイ工場で生産することが目標だ。

相乗効果を

西居徳和専務は「日本で確立した技術を委託できるまでに、数年後は高いレベルで相乗効果を生み出してほしい」と語る。西居製作所のタイ進

企業への関心高い
OTPに対する企業の関心は高く、大田区外の会社からも問い合わせがある。これまで延べ30社以上が現地に視察に行き、今後の入居を検討している。切削加工を得意とする堀越精機（東京都大田区、堀越秀昭社長、03・3761・553



タイの「オオタテクノパーク」●と入居一番手の南武のタイ工場